

## 資料室だより 165

—橋本先生遺品より—

先生が残された荷物は宝の山です。物であっても精神的、文化的遺産として計り知れない価値があります。残された書籍や楽譜には命が宿っているように思えてなりません。ここにかかわっている方々、またグレゴリオの家心に心を寄せてくださっている方々と分かち合い、さらに豊かにこれを継承していきたいものと思います。

### **+Orgelbuch;Orgelstücke verschiedener Form zum Gebrauch beim Gottesdienste und anderen Anlässen, I~IV**

これはバイロンのベネディクト会修道院の司祭 Gregor Molitor が作曲したオルガン奏楽集です。1916 年、とかなり刊行年は古いのですがミサのなかで奏楽するにふさわしい楽曲を観想修道会の修道司祭が作曲しているということで世間の一般の作品出版とは性格が異なります。ミサのなかにおいてのみ鳴り響くべき曲です。橋本先生はこれを勉強された形跡があります。修道院での奏楽の雰囲気 これらの音楽から再現できます。恐らくは他機関、他音楽図書館には所蔵されていない貴重な楽譜です。蔵書印を押さず、図書分類ラベルもつけずに配架しておきますので閲覧されたいかたはご自由にご覧くださいベネディクト会のミサの靈性に想いを馳せてください。

### **+Canti per la Liturgia Diocesi di Pistoia**

ピストイアの司教座から刊行されているということでしょうか。グレゴリオ聖歌のミサ曲などがオルガン伴奏で、イタリア語で歌われるようになっておりますが、Salve regina などラテン語のままの聖歌もあります。典礼の実用に供される楽譜ですが様々な曲が所収され、実に楽しい曲集です。日本のカトリック聖歌集でもなじみのあるルルドのマリアを歌う「あめのきさき」が Ave Maria di Lourdes として載っております。また Fratello Sole, sorella Lune、つまりフランシスコの太陽の歌のテキストがコルトナラウダのフランシスコ賛歌の旋律で載っていたりします。

### **+Weihnachtsliedenbuch des Thomanerchores Leipzig Carus**

これはタイトル通りにライプチヒ、トーマス教会のクリスマス曲集です。クリスマスの歌が美しい編曲で収録されています。これからの季節にどうぞご活用ください。

杉本ゆり 記